# 大自然とお友達体験講座 2023　第4回講座レポート

第4回目の講座は 8 月 6 日（日）に大阪府貝塚市と岸和田市にまたがる和泉葛城山ブナ林での開催です。
この日の受講生は 11 名。環境事業協会本社のビルの 1 階で集合して班分けの確認をした後、バスに乗り込みました。

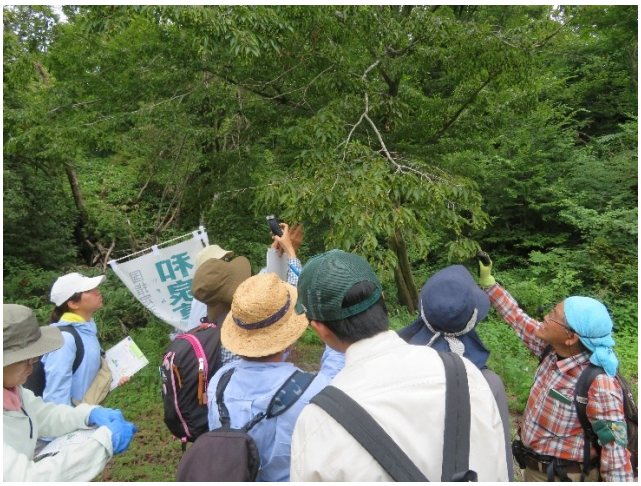
和泉葛城山山頂の駐車場に着くと、今回の講座でお世話になります和泉葛城山ブナ愛樹クラブの方々に出迎えて頂けました。

代表の土井雄一さんです。まずは和泉葛城山ブナ林の概略をご説明頂きました。

実は到着時に近くのヤナギの木に居た画像のアカアシクワガタ♂をこの土井さんより頂きました。主に標高の高い山に生息する赤い脚が特徴のクワガタです。

駐車場横に人為的に植えられたブナを使っての観察会が始まりました。右手に見える建物は、かつては営業していて今は無き売店の跡地です。

左の写真の赤チェックの服を着た、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員の田中正視さんと、土井代表とに連れられ、受講生はそれぞれ 2 つの班に分かれてブナ林の散策へと出かけました。

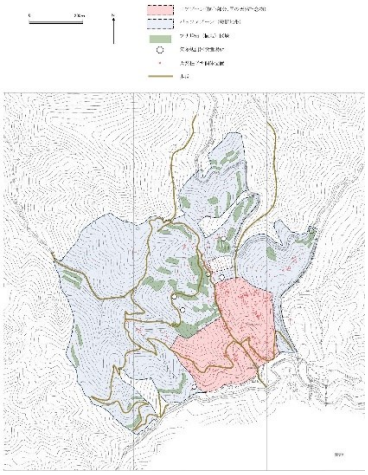


駐車場すぐ横の和泉葛城山の山頂には大阪府側に高靇（たかおがみ）神社 （葛城神社)と和歌山県側の龍王神社が隣接して立地しています。

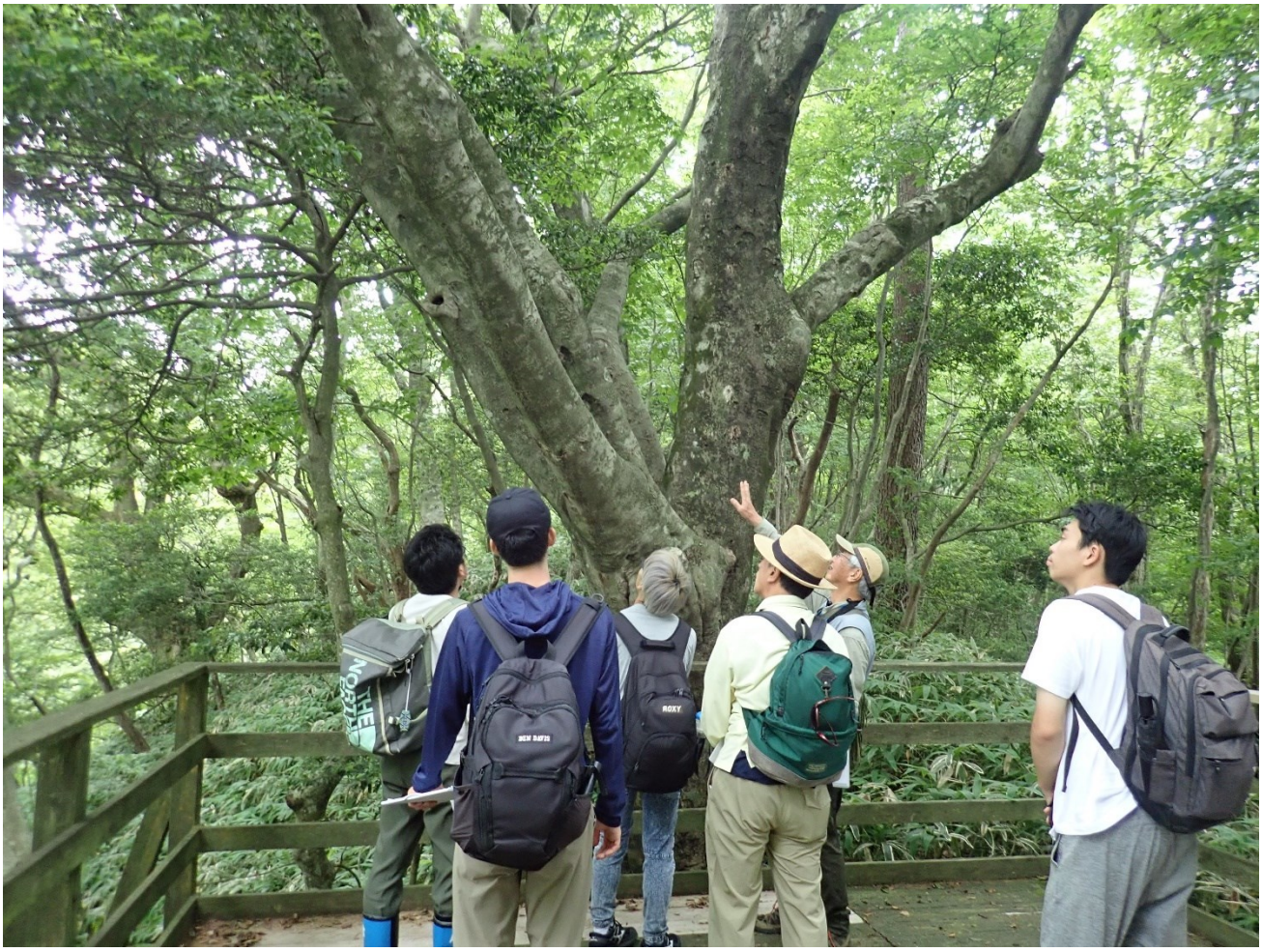
設置看板を使いながら、その神社の歴史のお話がありました。受講生は静かに聞き入っていました。この土地は五箇荘といって、5つの地区が土地の所有者となっており、協働で地域を守ってきました。

山頂付近に自生するこの山の象徴とも言えるブナ林。その全てのブナの木の根元には、番号が振られた赤/白の標識が刺さっています。また、和泉葛城山にはブナとよく似たイヌブナが混在して自生しており、下の写真はそれを説明しているところです。

さて、次のポイントに移動です。長い階段を下り、塔原道の観察デッキを目指します。周辺地区一帯はコアゾーンと呼ばれる天然記念物の保護区域（下記地図の赤色の部分）となっています。



こちらが塔原道の観察デッキとなります。
大きなブナの大木の説明をしている様子です。



このデッキは部分的な補修跡の影響で縞模様になっています。ブナの種子が落ちていることが多く、皆で探しましたがこの日は殆どありませんでした

下の写真はヤドリギの着生の様子。鳥の糞などで運ばれ、ネバネバの種子が木の表面に付着し発芽すると、そこから養分を吸い取り大きく成長する寄生植物です。

右の写真は牛滝道で斜面下を眺めて解説を受けている様子。斜面の傾斜角度が良く分かる写真です。

ふと見つけたブナの幹に、名前が刻まれていました（写真左）。いつ頃つけられたのでしょうか、天然記念物の森なので勿論こういった行為は一切禁止されています。

写真左の中央に写っているのはブナの若木。まだ全然大きくないですが、ここまで成長するにも数年かかっていたりします。

牛滝道の観察デッキに到着しました。最近補修されて新しくなりました。

こちらは田中先生引率の班。至る所に解説ポイントがあり、熱心にお話頂けました。この森に対する熱い情熱を感じ取ることができます。

下の左の写真はブナを指さすブナ愛樹クラブ元代表の弘田さん。数百本のブナにそれぞれ振り分けられている固有の標識番号を殆ど覚えておられる凄い方です。

このあと、2 班とも昼休憩をすべく、はじめにバスを降りた時の集合地の方へと戻っていきました。

途中で見つけたこちらの写真の植物は、先程ご紹介したヤドリギが樹上で大きく育ったもの。写真中央部が団塊状の株になっているのが見て取れます。

左下の写真は恐らくウスバカミキリの産卵痕。ヨツボシケシキスイなどが樹液を吸いにやってきていますが、この木はカミキリムシによる被害が顕著に見られ、数年後の木の生存が心配されます。右下の写真がそのウスバカミキリ。大きなメスは 60mm 近くになりますが、小さいオスは 30mm 程度にとどまるようです。写真の個体はメス。

午前中の活動が終わり、東屋の下で休憩に入ります。

休憩が終わる頃、折角なので和歌山県側の景観の説明を土井代表にして頂きました。
標高が高いので本当に景色が良いです☆

下の写真は、午後からの講座の気象観測器の説明のため、移動中の受講生たち。

弊社職員の岡本は、この気象観測器を管理している大阪みどりのトラスト協会の元職員であり、当時このブナ林の担当者であったことから、この気象観測機器がなぜ取り付けられているのか、どういったデータを計測しているのかなどをお話させて頂きました。
因みにこの場所では、風速・風向・雨量・気温・日照時間を計測しています。現在の情報だけで評価をするのではなく、データを蓄積させていく事で傾向を読み取るといった長期的な視点での狙いがあります。

午後からのメインとなるのは、ここから始まる木の間伐体験です。
資料を用いて人工林の管理のされ方や、安全面での配慮を講義頂きました。
中心となって動いてくださったのは、下の写真右の中室さんで、抱えているのは木の切り込みのいれ方を教える為の模型。
一通り説明された後、2 つの班に分かれて体験が始まりました。

講座の進行がしやすいように、ブナ愛樹クラブの皆さんにより事前に切り倒す木にロープをかけておいて頂けたようです。このロープは倒したい方向に木を引っ張り安全に倒す為のものです。事前準備ありがとうございます！

木の伐倒に詳しいブナ愛樹クラブの担当者が、丁寧に初心者である受講生に教えて下さりました。下の写真左の白ヘルメットは先程の中室さん、右の写真の白ヘルメットは藤原さんです。

重力の方向に対し、平行にノコギリを入れていくのがポイントです。これがなかなか難しいようです。

受け口と呼ばれる部分の木片です。ヒノキのいい匂いがしています。有効成分ヒノキオチールには抗菌作用や防ダニ効果があり、香りもいいことからヒノキは様々な製品に使われています。

木が倒れる瞬間です！
安全管理を確実に、無事伐倒に成功しました。
何百kg もあるので、安全管理を怠ると日本全国では年間何人もの死者が出ているそうです。

枝払いをしている様子です。

伐倒後の切り株の断面図。
倒れた時の跳ね上がりを防ぐため、あえて中心部は切断しません。

そして伐倒した木はほぼそのままに（後程ブナ愛樹クラブの方々に処理頂けるようです）、次のアクティビティ、丸太切りのために木の伐倒の説明を受けた広場に集まりました。ここに設置してある台座（馬）も、ブナ愛樹クラブの皆さんが設置、切断用の丸太も事前にご準備頂きました。
説明を聞いて、早速丸太切りの開始です。

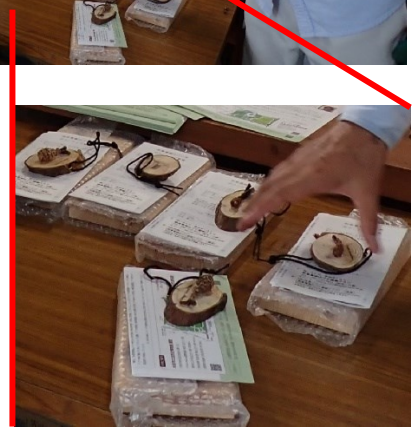
ご覧のように一人が切っている間は他の人は馬を押さえるのに徹します☆

自身で切った丸太のスライスを片手にご満悦の受講生たち。

道具は使い終わったら手入れを必ず行います。
水分を取って油をさす作業をすることで錆びさせず、道具を長持ちさせることができます。

左の写真の皆さんが眺めるその先には、下の写真のような光景が広がっています。標高800mを超える位置なので、非常に景色が良いです。関西国際空港が一望できます。

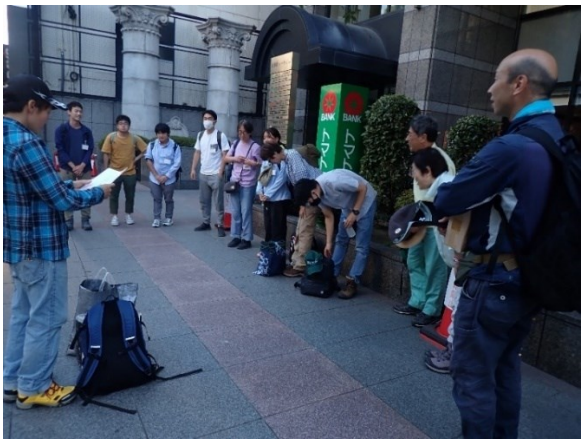
最後に受講生にアンケートを書いてもらっている間、プレゼント配布の準備です。本日は作成者の方のご出席が叶いませんでしたが、この日の為にヒノキの工芸品のプレゼントをご準備頂けました。昨年度の学生ボランティア養成講座で伐倒されたヒノキを使った、スマホ立てになります。
その他、リスが食べた跡の松ぼっくりの軸（通称：エビフライ）のキーホルダーもありました（写真右下の、それぞれの一番上に乗っているもの）。



恒例の振り返りです。数名に発表頂いて、皆さんの気持ちの共有とおさらいを行いました。

頂いたプレゼントを片手に参加者全員での集合写真です。このあと、お世話になったブナ愛樹クラブの皆さんにお礼を言ってバスに乗り込みました。

無事、バス降車場に到着した皆さんは、この後解散しました。



アンケートでは、受講生全員の参加満足度が最高評価の「満足した」と回答して頂けました。
記述内容例としては以下のようなものがありました。

・ブナ林の育成・保全活動のほんの一部だと思いますが、学ぶことができ、とてもよかったです。田中先生の森に対する愛情の深さに感動し、お話もおもしろくわかりやすかったです。「人の手を入れず、自然のままに任せる」という言葉にも感動しました！

・温暖化をどう防いでいけるか、様々な場面で様々な環境で課題が浮き彫りになっているのに、歯がゆい思いをしている、加えて、プラスチックゴミ問題を含め、興味関心の深まりとともに、出来る事から・・・と思いつつも、もっと効果のある取組ができないものかと考えさせられた。

・ひのきの伐さいは生木の命をいただいている気がした。初めての体験で普段できないことをさせてもらったこと。事前の準備にも感謝です。ありがとうございました。

以上のような回答が寄せられ、環境についていつも以上に深く考えることのできた講座となりました。地球温暖化の影響で標高 800m を越えるこの和泉葛城山でも、積雪の機会が非常に少なくなってきており、積もっても数日ですぐに解けてしまいます。ブナ林の今後に非常に大きく影響しているため、人類一人ひとりの意識が今、非常に重要になっています。